

テクノロジー諮問委員会（第1回）

議事要旨

日時：2016年3月9日 8:00～10:00

場所：組織委員会虎ノ門オフィス役員会議室

委員会の位置づけと背景

- 諮問委員会では、東京2020大会に向けたテクノロジー関連の具体的な施策案として、事務局が提示するたたき台をもとに、組織委員会の財政面での制約やマーケティング権利に関わる制約なども考慮しつつ、施策としての妥当性・実現方法、さらに発展させたアイデア、などを議論し、アクションの方向性を絞り込むことを目的とする。
- 議論した内容・結果は、提言として組織委員会が受け取るとともに、可能な限り情報公開する。（発注前の入札に係る情報、セキュリティに関する情報などは、支障のない範囲に制限する。）

委員長の選定について

- 互選により、國領委員が委員長に選定された。

議論内容（委員の主な意見）

【議論テーマ1】

2020大会のレガシーとして、参加者（観戦者・ボランティアなど）に何を残せるか？

<顧客情報データベースに関する施策の進め方>

- 参加者に関する顧客情報データベースは2つの観点で重要。1. 大会や大会への期待感を盛り上げる活動への参画を促す、2. チケット購入者やボランティア参加者へ質の高いサービスを提供する。
- CRMの分野では、カスタマイズできることがポイント。
- デジタルメディアの活用という意味では、SNSの重要性が増している。メールマガジン、WebサイトのようなチャンネルとSNSとを組み合わせ、目的ごとにカスタマイズすべき。
- 顧客情報のレガシー利用を考えるとメールアドレス、大会期間中の盛り上げを考えるとSNSアカウント、という住み分けだろう。後者については4年後にはさらに重要になっているはず。
- 特にSNSにフォーカスした大会盛り上げ施策は、専門アドバイザーを置いたほうが

よい。ファンコミュニティを作る、コミュニティを盛上げてくれる人に活躍してもらおう、という観点が重要。

- 長野大会のときには SNS は今ほど発展していなかったもので、報道機関にいかにか早く情報を届けるかがポイントだった。今は時代が変わってきた。
- ファンを作る、コミュニティを作る、という観点では、顧客の居住地（カンントリーコード、郵便番号など）に関する情報やその分析も重要だろう。
- 顧客情報管理に関しては一貫したアーキテクチャが必要。

【議論テーマ2】

“史上もっともイノベーティブな大会”とはどうあるべきか？ <自由討論>

<レガシー>

- セキュリティ対策がレガシーのポイントでは。ウェアラブルなど新しい技術も、セキュリティの観点で日本らしさを出せるはず。
- 観光立国をテクノロジーで促進すべき。
- 社会全体としてエネルギー管理のインフラ（BEMS, CEMS）も整備されるべき。
- 日本が得意なハード業界の一つとして建設・土木業界にも着目すべき。関わる人々のデータベース化、BIM・CIM 環境の整備、などテクノロジーが活用される領域がいろいろある。

(※用語説明)

BEMS : Building Energy Management System (ビル エネルギー 管理システム)

CEMS : Community Energy Management System (コミュニティ エネルギー管理システム)

BIM : Building Information Modeling (建築物のデータベースを、設計・施工・維持管理などの工程をとおして活用するためのソリューション)

CIM : Construction Information Modeling (BIM を土木分野にも広げて建設事業全体の生産性向上を図るソリューション)

<大会での活用>

- 夏場の大会でもあり、電力使用量の見える化などを行うなどして、日本のエネルギー対策への取り組みを発信出来ないか？
- 競技場は防災拠点として重要な意味を持つ。競技場の ICT 設計においても配慮が必要。とりわけ、障がい者や高齢者などの特別なニーズにどれだけ応えられるかどうか、がポイント。
- スポーツ×ICT の分野も観点が重要。欧米型のテクノロジー活用を追いかけるだけでなく、パラリンピックなどツールを使うスポーツに着目するという発想も必要。レガシーとして高齢者への展開が可能なものを検討できないか？

- パラリンピックのサポーター、マネージャを ICT で武装させられないか。IT 業界から人材を出してもらいたい。学生ボランティアやインターンなど、人気はでるのではないか。
- 第 5 世代移動通信と最新のイメージセンサーとの組み合わせで、スポーツの見せ方を進化させられる可能性もある。また、第 5 世代移動通信は、警備や大会運営業務などに特化して活用することも考えるべき。
- “イノベティブな大会”のためには、規制に縛られてはできないという面もある。

<対外メッセージ>

- 組織委員会として「どういうテクノロジーを導入するか」よりも、「テクノロジーに関する対外的なメッセージまたはフィロソフィー」が重要。まずは具体的なメッセージを決めて、個々の施策につなげるべき。「テクノロジーで肉体の限界を超える、言語の限界を超える」など。
- 欧米では AI やロボットを敵対的に見る傾向があるが、日本では昔から共存する考え方がある。日本らしい施策があるはず。
- 高齢化社会に向けて、高齢者をスポーツに向ける。その中で AI やロボットをつなげることができればいい。
- オリンピアン、パラリンピアン、ロボットと一緒に一つの競技をする、ぐらいのイメージやエキシビションが欲しい。

今後の対応

次回は、以下で開催予定

議題（予定）：「競技観戦を支援するテクノロジー」に関する検討状況／「テクノロジーに関する対外的なメッセージ・フィロソフィー」に関する議論／「史上もっともイノベティブな大会」に関する継続議論

日程：6月